

平成 28 年度 大阪学院大学高等学校 学校評価

1 めざす学校像

《教育方針》

本校は、開校以来、学校法人大阪学院大学の建学の精神である『視野の広い実践的な人材の育成』を理念として、将来、高度な専門分野へ導くために、高校時代に身につけておかなければならない「現代社会に必要な基礎学力の習得」に主眼をおいた教育を行うとともに、人格の基礎をつくるしつけと情操教育に加え、一人ひとりの個性や能力を尊重した教育を目指している。

《特色》

本校は、学校法人大阪学院大学の高等学校教育部門で、迫りくる社会生活への対応能力や人間性を高めるうえで、重要な役割を担っている。本校の大きな特色は、大学院を擁する 9 学部（短期大学部を含む）からなる大阪学院大学と 3 つの専門学校（関西経理専門学校、関西健康・製菓専門学校、関西医科専門学校）で構成されている AST カレッジが併設されており、幅広く社会に対応出来る進路が確保されていることである。高等学校と併設大学での 7 年一貫（短期大学部は 5 年一貫）教育、高等学校と AST カレッジでの 5 年・6 年一貫教育を実現することは、「チーム大阪学院」として胸を張って生き生きと人生を謳歌してもらえるようなシステムといえる。このような高大連携・接続は他校にはまねのできないことと自負しており、本校の大きな強みである。本校は、この学校法人のシステムを活用して次に示すような特色づくりを行っている。

【教学面】

本校独自の取組として、毎週土曜日を総合学習の一環として、「SC(サタデーチャレンジ)」を行っている。この SC とは、文部科学省が設定している教科・科目ではなく、各コース（普通・特進・国際・スポーツ科学）でそれぞれ特色ある取り組みを行い、生徒自身が能動的に取り組めるように相違工夫がなされている。

この取り組みに関しては、併設大学のキャンパスを利用して行うことがメインであり、これも他校ではまねのできないことと自負している。

【生活面】

毎朝、全教員が最寄駅からの通学路および正門等に分散して、生徒の登校を見守るようにしている。このことにより、生徒の表情の変化や、体調などを事前に把握しやすくなり、また挨拶を行うことにより、生徒との距離も縮まり関係構築に役立っている。

社会に出て必要また信頼される人材になるためには、「時間を守る概念」を定着する必要がある。そのためには、次に起こることを自分自身が予測し行動する力が必要である。本校では、本年度より始業 1 分前に、校歌を放送で流して始業の心構えを持って授業に取り組めるようにしている。

【学校活動】

本校では、学年・性別など関係なく、「愛校心」を育むために、全校をあげて生徒の取組を応援している。その一つとして、各クラブでの活躍を全校朝礼時に紹介し、生徒・教職員でその健闘を称えている。また、全国大会の予選や全国大会出場の際も、バスに分乗して応援に駆け付けるようにしている。このように本校の生徒が、自分自身の関心がないことに対してでも、全力で何かに取り組んでいる仲間たちを応援することによって、他人を思いやる気持ちや、努力の尊さを感じ取って、他者を認め尊敬の念を抱けるように生徒を教育している。またこのことにより、生徒だけではなく、本校教職員や保護者にも連帯感が生まれてくる。

2 中期的目標

1 学習指導について

- (1) 授業時間前の学習教材準備を徹底する。
- (2) 授業開始時間を厳守する。
- (3) 授業態度の改善に取り組む。
- (4) 成績不良者、低学力者等に対する指導を行う。

2 生活指導について

- (1) 欠席・遅刻・早退者を減少させる。
- (2) 頭髪・服装・携行品指導を徹底する。
- (3) 登下校時のマナーを向上させる。

3 進路指導について

- (1) キャリア教育を推進させる。
- (2) 高大接続の深化に取り組む。

4 人権教育について

- (1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。
- (2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。
- (3) 学校生活やいじめについて調査をし、より良い学校生活ができるように取り組む。

5 保健について

- (1) 健康診断後の、精密検査・再検査未受検者を減少させる。
- (2) 運動器検診の実施方法を検討する。
- (3) 保健室の利用状況を把握する。

6 施設・設備について

- (1) 校舎の耐震に対する対策を検討する。
- (2) 教育環境の充実に努める。

【自己評価アンケートの結果と分析】

自己評価アンケートの結果と分析
生徒アンケート [平成 28 年 12 月実施分]
教員アンケート [平成 29 年 1 月実施分]

○生徒アンケート

「教育活動全般に関わる質問調査」 平成 28 年 12 月実施
全校生徒に対し、別紙 23 項目について無記名による回答として実施した。
※アンケート結果については別紙にて報告。

「1. 本校に入学して良かった」、「23. 本校で充実した学校生活を送っている」については、他の項目と比べて肯定的評価が高くなっている。また、「16. 校外学習」や「17. 球技大会」、「18. 体育大会」、「19. 文化祭」等の学校行事に対する項目や「11. 本校は基本的な生活習慣の定着や社会のルールを守ることもしっかり指導していると思う」等についても平均して肯定的評価が高いようである。

一方で、「6. 本校には分かりやすい授業を行ってくれる先生が多いと思う」や「7. 本校には各教科の基礎・基本の習得を図り、進路実現に対応できる学力を身に付けさせてくれる先生が多いと思う」という授業に関する項目や「8. 本校には進路に関する情報を随時生徒に提供し、生徒の適性や希望に応じた進路指導を行ってくれる先生が多いと思う」や「10. 本校には自分の成長に効果があると思える取り組みが多いと思う」、「13. ホームルーム活動では、生徒が自主的に取り組み、互いに協力して活発に行っていると思う」という将来の進路設計等に関する項目については肯定的評価が 30%以下になっている学年もあった。

○教職員アンケート

「自己（授業）評価」 平成 29 年 1 月実施
全教員に対し、別紙 24 項目について無記名による回答として実施した。[有効回答数は 99 名]
※アンケート結果については別紙にて報告。

自己（授業）評価の考察を行うにあたり、回答の中で「全くその通り」「どちらかと言えばその通り」の回答を肯定的評価として考えると、全 24 項目中 14 項目で肯定的評価が 80%を超えている。

特に、「8. 生徒の理解を促すように、発問や板書を工夫している。」、「10. 授業内容に関する生徒の質問については十分な対応をしている。」、「19. いつも授業にふさわしい雰囲気づくりを心掛けている。」、「23. 生徒が間違った言動をしたときに、間違いを気づかせるように根気強く取り組んでいる。」の 4 項目については肯定的評価が 90%を超える結果となった。

一方で、「7. 小テスト等を適宜行い、生徒の理解度や到達度の把握に努めている。」、「12. 生徒は真剣な態度で授業に集中している。」、「13. 生徒は、予習・復習等の家庭学習にしっかりと取り組んでいる。」、「17. 生徒は年次に応じた進路意識をもって学習に取り組んでいる。」、「18. 生徒は授業で学んだことから更に意欲・関心を深めている。」の 5 項目については、肯定的評価が 60%を下回った。

○保護者

本校では、教育活動の充実や行き届いた生徒指導を行うため、学校と保護者が緊密な連携をとり、本校後援体制のより一層の強化を図ることを目的として、平成 16 年度から後援会組織と協力の上、保護者の学級委員を各クラスから選出し、同委員取りまとめによる保護者のクラス会を開催している。クラス会では、保護者同士の親睦を図ることを前提として、色々な場面や雑談の中で出てくる意見などを同委員が取りまとめ、これを学校と後援会組織で検討し、可能なものは前向きに対応していくという形式を取っている。これは、保護者皆様が不安に思っていることや生徒指導上の問題点等の早期解決と学校のより良い方向性を見い出すことに役立っている。

クラス会で出た意見等に関する対応状況の報告会は毎年行っており、今年度は平成 29 年 1 月 28 日（土）に開催し以下の項目に関する報告を行った。

- ・進路に関する詳しい説明会の開催について
- ・サタデーチャレンジの内容について
- ・制服の服装規定等について
- ・自転車置き場の拡充やレインコートの置き場所について
- ・授業参観の実施について
- ・夏季休暇中の登校日や宿題等に関する質問日の設置について
- ・定期考査や早朝テストの取り組みについて 等

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 学習指導について	(1) 授業時間前の学習教材準備を徹底する。	(1) ア 各担任から、ホームルームの際に授業前準備の大切さについて説明をする。	(1) (2) ア 各教員が始業チャイムと同時に教室入室できたか。	(1) [△]、(2) [○] ア 授業開始時間を徹底し、開始のチャイムが鳴れば、教材を準備したうえで各自着席し、授業に臨めるように方策を練る。
	(2) 授業開始時間を厳守する。	(1) イ 授業担当者から授業時に注意を促す。	イ 各授業において、チャイムと同時に授業が開始できたか。	イ 各授業に対する準備の徹底が不十分であったため、担当教員が教室に到着してから教材を準備する生徒がいた。
	(2) 授業開始時間を厳守する。	(2) ア 各教員が始業チャイムと同時に教室入室をする。	ウ 授業開始1分前の予鈴が鳴らせたか。	ウ 授業開始1分前の予鈴については一定の効果があつた。また、予鈴については放送機器により自動的に鳴らすようにした。
	(2) 授業開始時間を厳守する。	イ 生徒に対して開始時間を尊重することが大事である旨を徹底して指導する。		
(3) 授業態度の改善に取り組む。	(3) ア 生徒が全ての授業に真剣に取り組む姿勢を養う。	(3) 生徒アンケートの質問11「本校は基本的な生活習慣の定着や社会のルールを守れることをしっかり指導していると思う。」の肯定的評価が60%以上。	(3) [△] ア 各授業担当者が注意するだけでは改善は図れなかった。	
(3) 授業態度の改善に取り組む。	イ 担任、授業担当教員が授業を受ける姿勢について根気強く指導する。		イ 授業に集中できず他の生徒に影響を及ぼす者に対しては、生徒規則の改定などで何らかの処分をするなどの方策も検討する。	
(4) 成績不良者、低学力者等に対する指導を行う。	(4) ア 各科目担当教員が成績不良者を出さない、放っておかないという姿勢を持つ。	(4) ア 生徒アンケートの質問4「本校には熱意を感じる先生が多いと思う。」の肯定的評価が60%以上。	(4) [△] ア 進級するごとに欠点者が増える現状があり、特に2年生の成績不良者の増加を防げなかった。	
(4) 成績不良者、低学力者等に対する指導を行う。	イ 該当生徒には積極的に声を掛けて学習指導を行う。	イ 生徒アンケートの質問6「本校には分かりやすい授業を行ってくれる先生が多いと思う。」の肯定的評価が60%以上。	イ 授業の進め方などにもっと工夫が必要となる。 ウ 従来、実施していた放課後強制補習などの復活を検討する。	

<p>2 生活指導について</p>	<p>(1) 遅刻者を減少させる。</p> <p>(2) 頭髪・服装・携行品指導を徹底する。</p> <p>(3) 登下校時のマナーを向上させる。</p>	<p>(1) 生徒手帳のカレンダー欄に、縦横1cmほどの枠を持たせ、遅刻をすれば(遅)印のハンコを押す。</p> <p>(2) 身嗜みの指導については、教員全員が一体となって行うことを基本とする。朝礼時には必ず頭髪チェックを行い、数日間の猶予を与え、度重なる指導に従わない場合は、保護者同意のもと学校指定の理髪店・美容室などで整髪させる。 服装については、登校時と下校時に正門・東門に指導部教員を配属し、指導にあたる。</p> <p>(3) 登校時は、JRと阪急の各最寄駅から学校までの通学路に、数名の校外指導教員を配置する。 下校時は、管理職と指導部主任が中心となって、正門から数百メートル範囲で指導を行う。</p>	<p>(1) 遅刻者を全学年で昨年度より1割以上減少。</p> <p>(2) ア 全校朝礼時に、毎回全学年で頭髪チェックを実施できたか。 イ 携行品（主に携帯電話）についてもホームルーム等で厳しく注意を促したか。</p> <p>(3) 毎日、登校時に全教員で積極的に指導を行ったか。</p>	<p>(1) [△] H28 延べ遅刻者数 5,466名 (△543) [H27 延べ遅刻者数 6,009名] 遅刻をすればハンコが増えるため、一目瞭然で生徒の遅刻回数が把握でき、指導もしやすくなったとともに、保護者会などで保護者に生徒手帳を見てもらうことで、自分の子供の遅刻状況を保護者も把握できるようになり、家庭でも注意をしてもらうことにより、全体で9.0%の遅刻者減少につながった。 ただ、生徒手帳を紛失する者が年間に数名おり、紛失をした生徒の過去の遅刻印というのは新しい生徒手帳には記載されないため、手帳を紛失した生徒の指導は改善する必要がある。</p> <p>(2) [△] 根気強く指導することと、基準を明確化することで、以前より頭髪違反や服装規定違反をする生徒は減少したが、女性教諭が少ないため、女子生徒に対する指導が行き届かなかった。今後は男性教諭も積極的に女子の指導に当たるようにする。</p> <p>(3) [○] 大きな事故が起きなかったことが一番の成果であるが、近隣住民からの苦情も大幅に減少した。 また、下校時に指導する人員を増やせば更なる安全対策が可能となるため、今後検討したい。</p>
-----------------------	---	---	---	--

	<p>(1) キャリア教育を推進させる。</p> <p>(2) 高大接続の深化に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 第1学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・読み物教材「じぶん未来 Book (リクルート社)」を活用した進路ホームルームを実施する。 ・総合学習の一環として社会で活躍する本校卒業生を招聘し、講演会を実施する。 ・進路適性検査の実施と担任による個別相談を実施する。 <p>イ 第2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学習の一環として社会で活躍する併設大学卒業生を招聘し、講演会を実施する。 ・進路適性検査の実施と担任による個別相談を実施する。 <p>ウ 第3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学習の一環として社会で活躍する本校または併設大学卒業生ならびに知識人を招聘し、講演会を実施する。 <p>(2)</p> <p>ア 2・3学年</p> <p>希望者ならびに併設大学内部進学予定者に対し、課外の時間を利用して併設大学の特別科目履修を実施する。</p> <p>※これは大学生に交じり大学の授業を受けるものであり、単位が認定された場合、併設大学の卒業要件単位数に計上することができる。</p> <p>イ 2学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・進路ホームルームにおいて「夢ナビプログラム(株)フロムページ」を実施する。 ・総合学習の一環として「夢ナビプログラム(株)フロムページ」に参加する。 <p>ウ 3学年</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合学習の一環として、多くの大学や専門学校の入試広報担当者や教員を招き、進路ガイダンスを実施する。 ・総合学習の一環として、就職希望者を対象に職場見学ならびに合同企業説明会に参加する。 ・多くの大学や専門学校と進路提携を結び、特別推薦枠を設定する。 	<p>(1)</p> <p>ア 各学年の取り組みに合わせた講演会を開催したか。</p> <p>イ 進路適性検査を基に担任が個別相談を行ったか。</p> <p>ウ 生徒アンケートの質問 8 「本校には進路に関する情報を随時生徒に提供し、生徒の適性や希望に応じた進路指導を行ってくれる先生が多いと思う。」の肯定的評価が50%以上。</p> <p>(2)</p> <p>ア 併設大学への進学者数</p> <p>イ 大学・専門学校への進学率</p>	<p>(1) [△]</p> <p>以下にあるように、各学年で講演会は実施できたが、キャリア教育の手段としては、読み物教材および講演会などの座学に止まっているため、キャリア教育をより実践的なものとするよう、今後は職場体験なども積極的に取り入れる必要がある。</p> <p>なお、今年度、招聘をした講演会の講師は次のとおりとなっている。</p> <p>ア (株)オートボックス社にて自動車整備に関して指導的役割を果たしている方。 この方は、「じぶん未来 Book (リクルート社)」でも紹介されている。 ※本校卒業生</p> <p>イ (株)OM FACTORY 代表取締役 (サウンドクリエイター) ※本校卒業生</p> <p>ウ 関西国際大学准教授 (心理学博士) ※本校卒業生</p> <p>エ 新大阪歯科技工士専門学校学科長 (大阪大学大学院歯学博士) ※併設大学卒業生</p> <p>オ 前大阪府立高等学校学校長</p> <p>カ 自衛隊広報担当者</p> <p>(2) [○]</p> <p>併設大学の特別科目履修は参加者が多く、有意義に過ごしているようである。単位を修得できた者が併設大学に進学した場合、より自由度の高い大学生活を送ることができるものと期待できる。</p> <p>大学や専門学校との情報交換については、個人情報保護の観点から慎重に対応しなければならない場合が多い。</p> <p>高校卒業時に、または大学や専門学校入学時に高大連携の観点から、卒業高校と在籍大学・専門学校とで情報交換することに関して、了承を得ておく必要がある。</p> <p>※併設大学進学者数 H28 219名 (H27 154名)</p> <p>※大学・専門学校進学率 H28 91.7% (H27 90.8%)</p>
--	---	---	--	---

<p>4 人権教育について</p>	<p>(1) 各学年別に学外講師を招き、講演会を実施する。</p> <p>(2) 全校生徒に人権に関連した映画鑑賞を実施する。</p> <p>(3) 学校生活やいじめについて調査をし、より良い学校生活ができるように取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>ア 1学年については、高校生になり携帯やネットでの友人関係の構築がはじまることから、インターネットやSNSに関する講演を行い、講演後にはアンケート・感想文を実施する。</p> <p>イ 2・3学年においては生徒の成長に合った課題として、自分を大切にすること、他人を大切にすることの必要性を考えさせることを目的とする。講演後には、アンケート・感想文を実施する。</p> <p>ウ 教員対象の講演会では、生徒のメンタルヘルスについての知識を学ぶと共に、教員自身のメンタルヘルスについても触れる。</p> <p>(2)</p> <p>実施後には感想・アンケートを実施することで、内容が定着し生徒の印象に残るように努める。</p> <p>(3)</p> <p>ア 学校生活・人権などの意識調査を2回実施する。(1学期と2学期に各1回)</p> <p>イ 調査結果を活用するため、いじめ防止委員会および教員対象の勉強会を開催し、全教員でいじめと不登校の防止に取り組む。</p>	<p>(1)</p> <p>各学年の課題に応じた適切な講演者を選定し、講演会を実施したか。</p> <p>(2)</p> <p>人権に関する映画鑑賞の実施と実施後の感想。</p> <p>(3)</p> <p>教育活動全般に関する質問調査の質問23「大阪学院大学高等学校で充実した学校生活を送っている」の肯定的評価が60%以上。</p>	<p>(1) [○]</p> <p>ア 1学年 開催日：平成28年6月21日(火) 内容：「インターネットと人権について」 講師：松村理紗氏(大阪法務局 人権擁護部第三課)</p> <p>イ 2学年 開催日：平成28年7月2日(土) 内容：「互いのこころとからだを尊重しよう」(デートDV防止対策) 講師：伊田広行氏(立命館大学 非常勤講師)</p> <p>ウ 3学年 開催日：平成28年9月17日(土) 内容：「性的マイノリティ(LGBT)についての知識を学ぶ」 講師：川西寿美子氏(大阪私立学校人権教育研究会指導員)</p> <p>エ 教員対象 開催日：平成29年2月3日(金) 内容：「思春期・青年期のメンタルヘルス」～こころのSOSに気づくためには～ 講師：栄 セツコ氏(桃山学院大学教授)</p> <p>1学年については、便利であるゆえに、色々な問題を抱えており、本校でも携帯電話(SNS等)などの間違った使用による生活指導の案件が増加する傾向にあるため、今後とも1学年時にしっかり指導を行う。</p> <p>2・3学年においては、今後は講演以外でも各種資料を配付し、生徒の自覚を促す。</p> <p>また、教員対象の講演も定期的に実施し、今後とも教員の勉強・心のケアに留意していく。</p> <p>(2) [○]</p> <p>題目：「アンダンテ(～稲の旋律～)」 内容：社会に対応出来ず対人恐怖症と引きこもりから抜け出し、新たな自立の道を懸命に模索する主人公を通して、登校拒否や引きこもりなどの現代日本の問題を共に考える。</p> <p>実施日： 1学年：平成28年11月5日(土) 2学年：平成28年11月19日(土) 3学年：平成28年10月29日(土)</p> <p>感想も概ね好評であったが、生徒の意見を発表するなど、結果を還元することが今後の課題である。</p> <p>具体的な例として、視聴覚教材は生徒の心に響くところがあり、安易ではあるが、有効な教材であると考えている。</p> <p>(3) [△]</p> <p>今年度は肯定的な評価が50%に満たなかったため、来年度は60%以上を目指し、教員の意識を更に伸ばせるよう、意識調査の結果を詳細に分析し、指導に役立てる。</p>
-----------------------	--	---	---	--

<p>(1) 健康診断後の、精密検査・再検査未受検者を減少させる。</p> <p>(2) 運動器検診の実施方法を検討する。</p> <p>(3) 保健室の利用状況を把握する。</p>	<p>(1) 例年、健康診断については問題ないが、再検査等の未受検者が多く見受けられるので、以下の取り組みを行い、未受検者の減少に努める。 ア 校内放送で受検を呼びかける。 イ 再検査日、再々検査日を設ける。 ウ そのうえで未受検者には、本校指定の医療機関での受検を勧める。</p> <p>(2) ア 今年度から健康診断に運動器検診(脊柱、胸部、四肢、首、関節の異常について)の項目を追加する。 イ 問診票を作成し保護者に先にチェックしてもらおう。 ウ 寮生の問診票については、前もって保護者に郵送する。 エ 検査項目が多くなるため、診察方法などを検討し、時間短縮を図る。</p> <p>(3) 近年、保健室の利用者が増加傾向にあることに対し利用の現状を分析し、今後の保健室の有り方について考える。</p>	<p>(1) 未受検者が0名になったか。</p> <p>(2) 生徒全員に実施するとともに、時間をオーバーしないよう、スムーズな検診が行えたか。</p> <p>(3) 来室内容を取りまとめ、利用状況の分析を行うことにより、次年度以降の利用指導に繋がられたか。</p>	<p>(1) [△] 未受検者に受検を呼びかけた結果、今年度の精密検査・再検査については、ほとんどの生徒が受検したが、1名のみ未受検となった。 今年度は大きく改善が見られたので、次年度以降も同様の対応を行い、未受検者が無くなるように努める。</p> <p>(2) [○] 今年度の健康診断では、内科検診と一緒に実施し、時間はかかったものの大きな混乱もなく、予定どおり全員実施できたが、以下の課題が残ったので、次年度には改善を行う。 ア 問診票の回収が遅く、また保護者の氏名欄、押印およびチェックが抜けているものが多く見られたため、問診票配付時により十分な説明をする。 イ 寮生の問診票については、たとえ二重になっても保護者への説明も兼ねているため、今後も郵送を行う。 ウ 診察医に手引きを渡したが、周知が図れず医師によって対応に違いが見られたため、次年度は、診察医への説明を徹底することにより、医師によって対応が異なることを解消させる。</p> <p>(3) [△] 今年度については利用指導も行ってきたが、データの収集に努めてきたため、次年度以降は以下の取り組みを徹底し、無用な来室を減少させ、本来のケガ・病気等の生徒への対応に注力できるようにする。 ア 「担当教員に許可をもらった」と嘘をついて休憩に来たり、「保健室に行く」と言って、来室もせず他の場所へ行っている生徒も居るため、担任または担当教員の許可証を持参させる。 イ 授業中にもかかわらず些細なことで来室する生徒が多いため、担当教員に、些細なことなら休み時間に行くように指導してもらおう。 ウ 利用時間・授業の開始や終了時間の感覚も無く、登校後すぐに(1時間目の初めから)体調不良を訴えて来室する生徒が目立つため、保健室の利用は原則として1時間であることを説明する。</p>
---	---	---	--

<p>6 施設・設備について</p>	<p>(1) 校舎の耐震対策を検討する。</p> <p>(2) 教育環境の充実に努める。</p>	<p>(1) ア 校舎および体育館の耐震補強等の計画を検討する。</p> <p>校舎・体育館の耐震については、平成 24 年度に耐震診断を行い、耐震補強計画の検討を重ねてきたが、本校および併設大学の敷地内を通過する都市計画道路（十三高槻線の延伸工事）の進捗状況、また前記工事等の影響による併設大学を含めた学校法人全体のキャンパス整備計画の策定等により、高等学校単独の耐震補強計画の検討を保留してきた。</p> <p>しかしながら、今年 2 月から都市計画道路に収用される本校グラウンドのセットバック工事ならびに整備工事も着工され、都市計画道路に関する学校法人の対応についても概ね終了したため、高等学校の校舎・体育館耐震補強を含めた整備計画の検討を改めて開始する。</p> <p>(2) ア ICT 教育環境の整備についてタブレット型 PC を先行導入する</p> <p>イ ICT 教育に関する教員対象の勉強会を実施する。</p> <p>本校の ICT 教育環境の整備については、施設的には前述の校舎の耐震対応にも大きく関係する問題であり、なかなか整備が進められない状況であったが、ソフト面等については、まず、昨年度に ICT 教育推進委員会を設置するとともに、テスト導入として、40 台の i-Pad を一定期間レンタルし、一部教員によるアクティブラーニングの試行を行い、良好な結果を得ることができたため、引き続き、タブレット型 PC 導入に向けた検討を継続するとともに、全教職員を対象とした「ICT 推進勉強会」を実施し、教員全体の意識改革も同時に行う。</p>	<p>(1) 校舎・体育館の耐震計画が開始・検討されたか。</p> <p>(2) ICT 教育環境の整備と教員に対する勉強会が実施されたか。</p>	<p>(1) [○] 長年の課題であった校舎の耐震工事であるが、平成 24 年度の耐震診断の結果を受けて、本校生徒・教職員の安全確保の観点から一刻も早い耐震対応が必要であったが、本校校舎の耐震補強工事については、校舎の構造上非常に困難な状況であり、また仮設校舎を建てることもできず、既存校舎を使用しながら耐震補強を行う場合は、更に膨大な時間と費用が必要となるため、近隣の併設大学キャンパスの有効利用も含めた校舎の耐震対応計画を進めてきたが、平成 28 年度になり、都市計画道路に対する折衝も完了し、今後の方向性について問題点が一つクリアになったことにより、計画も前向きに考えられるようになった。</p> <p>そのうえで、改めて本校の耐震対応について計画を推進することになり、校舎・体育館の耐震補強および改修計画の検討を早急に進めていくこととなった。</p> <p>(2) [△] 耐震対応と合わせて、ICT 教育環境の整備についても検討を進めているが、校内無線 LAN の整備等については、校舎の計画が決定するまでは何も進めることができないため、まずはソフト面について、教員対象の勉強会ができたことはひとつ前に進めることができたと考え。</p> <p>また、秋には 10 台のみではあるが、新たに試用用の i-Pad も導入し、自由に運用できるようになったため、今後のクラスでの活用方法を模索するとともに、各教員の研鑽にも繋げられるように考えたい。</p> <p>次年度以降についても、引き続き ICT 教育環境だけでなく、学校全体の教育環境の充実に努めていきたい。</p>
------------------------	--	---	--	--